

事務事業評価表 平成25年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 商業の振興
 基本事業 観光・イベントによる賑わいの創造

事業名 **えべつやきもの市イベント振興事業**

[0079]

部名	経済部	事業開始年度	平成2年度	実施計画事業認定	対象
課名	商工労働課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>やきもの市実行委員会</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>江別市のPR、芸術文化の振興及び地域経済の活性化に寄与するとともに、イベントとしての楽しさを創造し社会性を育成する。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>総事業費のうち、事務局費を除いた宣伝費、会場費、事業費が補助対象となっている。 補助率は3分の1以内、及び予算限度額内としている。</p>
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	実行委員会構成団体数	団体	11	10	10	10
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	2,400	2,400	2,400	2,400
活動指標2						
成果指標1	来場者数	人	84,000	60,000	63,000	60,000
成果指標2	売上額	千円	42,000	30,000	31,500	50,000
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	2,400	2,400	2,400	2,400
正職員人件費 (B)		千円	1,612	2,007	1,603	1,611
総事業費 (A) + (B)		千円	4,012	4,407	4,003	4,011

費用内訳	
24年度	負担金 補助及び交付金 2,400千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	会場周辺の出展者及び地域住民の代替駐車場としている公社用地（JR江別駅横）の開発で、他の駐車場を探すなど厳しい状況になってきているほか、民間企業からの代替駐車場地も売りに出ている状況で先行きが不透明である。 当初民間の事務局で開始、その後陶芸の里構想との関連づけから工業振興課 セラミック・アートセンターと変わり 陶芸の里構想の見直しとNPO法人やきもの21設立を契機に再び民間（NPO）となっている。
--------	--	-------------	--

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・根拠は？

市が補助する部分は、参加する市民の受益部分である広告費、警備費、バス運行費等である。
出店する者は、店用のテント設営費や机そして撤去費などを負担している。

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・根拠は？

江別市にとっては最大の商業イベントで、北海道を代表するものになっている。市内の施設見学や会場以外の飲食店、野菜即売場の立ち寄りなど市内での人の流れがでてきている。

(3) 計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・根拠は？

認知度も高く、集客力も大きく、出店の受け入れ態勢や実行委員の評価も高い。JR江別駅前開発が進むにつれ地域住民・出店者の駐車場の確保が難しくなっている。

(4) 成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・根拠は？

10回以上を超えるとマンネリ化を警戒する必要がある。常に「これで良いのか？」を検証し翌年以降に生かす試みが大事である。

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・根拠は？

出店料と補助金のみで運営。補助金を減額することは出店側の負担を大きくすることで、参加者の減少につながる。また、実行委員会も経費削減に積極的に努力している。削減は、来場者へのサービスの低下（無料シャトルバスの運営など）が危惧される。
しかし、イベントの認知度があがり集客も一定の成果を見せていることから周辺地区で同日の他イベントも開催されており、それと連携をとることでこの事業自体のコストを下げる余地はある。